

令和元年 10 月月例記者会見

【 説 明 】

〔ビブリオバトル in いこまスペシャルを開催〕

市長 11 月 24 日に、「ビブリオバトル in いこまスペシャル」を行います。生駒市ではビブリオバトルを毎月行っていますが、他に今回は全国大学ビブリオバトル 2019 首都決戦を行います。さらに特別に本市在住の映画監督・空下慎さんの作品「桜が咲く頃 交わした約束は、」が 2019 マドリッド国際映画祭短編外国語映画作品賞部門最優秀賞受賞したことから、それを記念して上映会を行います。同作品は、本市在住のスチールカメラマン長谷川充さんが撮影し、上映会後には 2 人によるトークセッションも行います。

なお、同作品は、イタリア・ミラノ国際映画祭でも外国語最優秀短編映画など 4 部門にノミネートされています。受賞は 12 月に決まるということですので、こちらも注目頂ければと思っています。

〔クラウドソーシングを活用し、デザインを募集「生駒の水 PR 事業」ロゴマークを決定〕

市長 生駒の水の PR 事業ですが、生駒の水は水質分析などからもおいしいということで、その PR を頑張っています。この普及啓発にロゴマークが必要ということで、市内の給水スポットとして協力して頂いているお店などに表示してもらいます。今回はクラウドソーシングを活用し、デザインを募集し、給水スポット協力店の投票によりロゴマークを決定しました。本市の名産品の茶釜の素材である竹と水をイメージした素敵なデザインになっていると思います。11 月 10 日のいこま魅力博で初披露をし、PR をしていきます。今回ロゴマークを作りましたので、さらに PR 事業に力を入れていき、給水スポットや水飲み場の設置数を増やすこと、イベント等への給水器の貸し出し、一般市販の水と飲み比べる利き水などの普及啓発をやっていきたいと思っています。参考ですが、利き水アンケートではミネラルウォーターより水道水の方がおいしいという方が約 8 割おられます。ミネラルウォーターと比べても圧倒的に安いですし、環境面では、マイボトルの 100 回使用は、ペットボトルの 1 回使用に比べ 10 倍ほど CO₂ の排出量が少なくなっています。マイボトルを積極的に啓発していくことで、その給水スポットがまちの至る所にあるというところを PR して行きたいと思っています。

〔「ミライのキオク」 - 歴史写真と同じアングルで撮って公開 -〕

市長 オープンデータの取り組みです。生駒市も 2 年後に市制 50 周年を迎えますが、その 50 年前よりさらに古い写真をオープンデータとしてきちんと保存管理するとともに、皆さんに公開提供することでまちの愛着を持って頂くとか、時代の変化を感じて頂ければと思っています。11 月 23 日にららポートで行います。昭和時代に撮られた写真などについて詳しい方にお話を聞きながら撮影された場所へ実際に行き、同じアングルで写真を撮り、比較したり、さらにオープンデータ化をし、市民の方に自由に使って頂きたいと思っています。生駒市ではオープンデータのポータルサイトを 2 年前から整理しており、300 件以上のデータがありますので、それを活用して頂くことで市民のまちづくりに貢献できたらと思っています。

【 質疑応答 】

〔「生駒の水PR事業」ロゴマークを決定〕

記者 2週間で49人、69件の応募があったということですが、募集期間はいつからいつまでですか。

担当課 8月22日から9月2日までの2週間です。

記者 インターネットで募集ですか。

担当課 はい、そうです。

記者 このデザインの製作者の情報は公開しないのですか。

担当課 マッチングシステムのようになっておりますので、応募者は誰かわからない仕組みになっていきます。

記者 賞もないし、自由に使えて、インセンティブもないということで承知で皆さんは応募されているということですね。

担当課 はいそうです。クラウドソーシングの会社に委託をしています。

記者 このロゴマークに決定した理由はなんですか。

担当課 市の水道事業の若手職員でプロジェクトチームをつくり、SNS映えするようなもの、目を引くもの、生駒の魅力を入れたものということで、竹と水道管の取り合わせ、色使いなどからを選びました。

記者 人目を引くとか環境に配慮したということですね。

記者 生駒の水はどこからきていますか。

担当課 生駒市内の地下水が40%で、残り60%は県営水道で吉野川と宇陀川の水です。

記者 他の自治体と違うのですか。県水でも吉野と宇陀は違いますか。

担当課 他の市町村は県水が多いですが、地下水が40%というのは大きな特徴です。県水を比較すると吉野水系のほうがおいしいと思います。

記者 23か所の給水スポットがあるということですが、各店舗の中に給水機があるということですか。

担当課 給水機は設置していませんが、店でマイボトルに水道水を入れてもらえるということです。

記者 店を利用されなくても入れてもらえますか。

担当課 はい、そうお願いしています。

〔「ミライのキオク」歴史写真と同じアングルで撮って公開〕

記者 何回目になりますか。

市長 写真をオープンデータとして公開しているのは以前からですが、このようなイベントは初めてです。

記者 現在の写真もオープンデータとして取り込まれることになりますか。

市長 過去の写真とセットにしてオープンデータとします。

記者 使い道としてはどういうことが想定されますか。

担当課 今回「ミライのキオク」と付けさせて頂いていますが、例えば、駅前に現在はなく、若者は知らない鳥居が写っている写真がありますが、年配の方に当時の話を聞くと、懐かしくて話が止まらないほど語って頂きました。我々が30~40年後そういうことをしようするならば、現時

点での写真データを今オープンデータとして保存する必要があります。オープンデータですので、どう使って頂くかは自由ですので、ビジネスに使用して頂いても、市民の方に楽しんで頂いても結構です。市としては、今回のイベントのように、こういう事にも使えるという提案をどんどんしていき、古いもの、新しいものを未来に向けて、多世代の方に利用して頂きたいと思えます。

記者 写真データは誰が撮ったものですか。

担当課 基本的には、事業などで市が撮影したものです。

(その他の質問)

(学研高山第2工区 まちづくり検討会)

記者 第2工区のまちづくり検討会に県の代表が入っていないのですが、今までの経緯から県抜きに検討するのは難しいと思うので、県が入っていないことに違和感があります。理由があるなら教えてください。

市長 我々は、県だけではなくて国もですが、最終的にこういう方向性で行くというマスタープランを出すときには、県、国の意見を頂きたいと思っております。生駒市から県や国に対して、有識者懇談会のとりまとめの報告書なども渡しており、こういう形で進めていきたいということをお話はさせて頂いております。初めから県や国に参画してもらうのがベストだったのですが、生駒市の意見をもう少し具体的にし、整理してから持ってきてほしいという県の意見がありましたので、前の有識者懇談会の議論をベースにして、先ずは今の体制で議論をスタートさせて、もう少し具体化したところで、県や国の参画を改めてお願いし、ご意見を頂くという流れにしたいと思っております。

記者 検討会は2021年3月までですが、その途中で入ってもらうのか、その後新たな組織をつくり、議論するのかどちらですか。

市長 なるべく早い段階で入って頂きたいので、この検討会に入っていただくのがベストだと思っております。

記者 そうすると何らかの中間報告ができて、それをもって入ってもらうということですか。

市長 今の段階で中間報告をつくることは未定ですが、そういった節目をつくるという議論になればそのような流れになると思います。

記者 県は有識者懇談会の内容ではよく分からないので、もう少し具体的な姿が見えてから協議しますというところですか。

市長 県にはある程度説明をしておりますので、全く分からないということではないと思っております、もう少しクリアにし、具体的な生駒市の思いを持ってきてほしいということです。

記者 もともとまちづくり協定を結ぶという話もありましたが、それはだいたい後の話になるということですね。

市長 協定を結ぶのは、県が議論に入ってくるとタイミングになると思いますが、なるべく早くしたいと思っております。

(台風 19 号)

記者 台風 15 号や 19 号での甚大な被害を教訓として、今後生駒市で対策を取られることはありますか。

市長 まず、千葉県をはじめ、広い地域で大きな被害を受けられた方々には、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。10 月にも非常に勢力が強い台風が来るということが、今年が特別ということではないということも念頭に置いて対策をしていく必要性を感じています。当初は生駒市も直撃ルートになる可能性があったので、他人ごとではないと思っています。生駒市では各行政分野で注目をして頂けるようないろんな取り組みを行っておりますが、何よりも大切なのは人命です。危機管理監も新たにきて頂いて防災体制を強化していますが、さらに関係者と協力しながら、水害や土砂崩れに対して訓練等をしっかりしていきたいと思っております。こういう被害が生駒市でも起こる可能性があるということを市民の方にしっかり周知していきたいと思っております。去年は生駒も台風の被害があり、避難訓練にもたくさんの方が来られましたが、今年は比較的被害が少ない年でしたので、避難訓練の参加者も減ってきている状況です。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ではないですが、毎年被害がありうるということも十分周知していきたいと思っております。

記者 被災地に対して今後どのような支援体制を取られますか。

市長 生駒市も全国のいろんな市町村との繋がりがありますので、そちらからの応援要請には積極的に応えていきたいと考えておりますし、また状況により要請がなくてもこちらから打診し、支援をしていきたいと考えております。

記者 どのような支援が必要になると考えていますか。

市長 河川の氾濫で廃棄物も出るでしょうし、各ご自宅の清掃、消毒の衛生管理や住宅の被災認定など行政事務の応援もあると思います。現場では多種多様な支援が必要になりますので、現場でのリクエストに応じてしっかり支援をしていきたいと考えております。

(青山社中関連)

記者 青山社中の監査請求についてですが、監査結果の付帯意見の中で、書類がずさんであるということで、契約書の書類等の日付が全部同じであり、見直しが必要であるという中身がありましたが、生駒市では平気でそのようなことをやっておられるのか、あるいは例外的なものなのか、また、この意見を受けて市として通達などの指導をしましたか。

市長 もう少し丁寧に整理をしたほうがよいという部分はあったと思いますが、全国の自治体の中で、生駒市だけがずさんな取り扱いをしているということではないです。どちらかと言うと文書管理は比較的きちんとやっていると思っています。今回だけがずさんであったかどうかといえば、今回特に法的に問題があったものではありませんし、政策決定過程の経緯をすべて文章で残すとなると、理想とすればそうですが、大変膨大な量になります。あくまで外部から情報公開請求があり、どのような経緯があり、どのような議論があったのか、また、どのような決定がなされたかをきちんと説明ができる範囲で、一定オープンにするということは、きちんとしていくつもりです。今回特に青山社中関係がずさんであったとか、生駒市全体の文書管理がずさんであったかという認識はありませんが、もう少し丁寧にやる必要があるということであれば、改善はしていきたいと思っております。現時点で通知等はしておりませんが、指摘をされたので、見直しが必要であると思っております。

記者 日付を全部同じで書いてあるということは、常識ではあり得ないことと思います。河合町では例がありました、生駒市でもあったということにとっても驚いています。政策過程のことではなく、日付のことを言っているので、これをきちんとしましょうという指示もされないのですか。

市長 今回の指摘を頂いていますので、真摯に受け止めて対処したいと思います。

副市長 監査委員からの意見については、真摯にきちんと受け止めていきます。今回のように少額なものは、課長補佐決裁となりますが、財政経営課や会計課の合議もありますので、お互いにチェックをする体制を強化するとともに、若手職員の研修もきちんと実施するよう、人事課とも協議をしているところです。

(了)